

演題 25. 2006 年に経験した新生児 G B S 感染症
3 例について

○澤田恭子 島津沙織 佐藤洋子(千葉県こども病院)

〈はじめに〉 Group B Streptococcus (以下 GBS) は、新生児の髄膜炎や敗血症の起炎菌として重要であり、感染形態は垂直感染が多いとされている。2006 年に当院 NICU へ入院となった新生児 GBS 感染症 3 例について報告する。

〈症例 1〉 在胎 35 週 2 日，男児。母体臍分泌物 GBS (－)。出生後より多呼吸がみられ，呼吸障害を主訴に当院入院となる。入院時の血液，鼻咽頭粘液，気管内吸引物より GBS I a 型が検出された。

〈症例 2〉 在胎 31 週，男児。母体の GBS 未検査。早産・低出生体重児・呼吸不全のため，出生後すぐに当院入院となる。入院時の鼻咽頭粘液，気管内吸引物，臍より GBS I b 型が検出された。

〈症例 3〉 在胎 38 週 5 日，女児。母体臍分泌物 GBS (－)。出生 6 時間後より発熱と多呼吸がみられた。発熱の持続・CRP の上昇・哺乳不良のため当院入院となった。入院時の血液，鼻咽頭粘液，臍，便より GBS I a 型が検出された。

〈考察〉 GBS は 10 種類の血清型に分類される。早発型新生児感染症では I a 型・I b 型・Ⅲ型・JM9 型が多いと報告されている。今回当院で検出された株の血清型は I a 型と I b 型であった。また，スクリーニングを施行されていた 2 症例で GBS は検出されていなかったが，早発型新生児感染症であるため，垂直感染が疑われた。

現在，新生児感染症発症予防のため，妊婦の保菌株や新生児発症株の血清型とその病原性の関連についての検討が行われている。今後も，新生児より検出された株の血清型を検査することで，新生児感染症発症予防の検討に貢献できるのではないかと考える。謝辞：血清型を検査して頂いた愛知医科大学看護学部の脇本寛子先生に深謝いたします。

043-292-2111 (内線 2264)